

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

情 報 局 編 輯 十 月 十 八 日 第 三 三 三 號

週 報 寫 眞

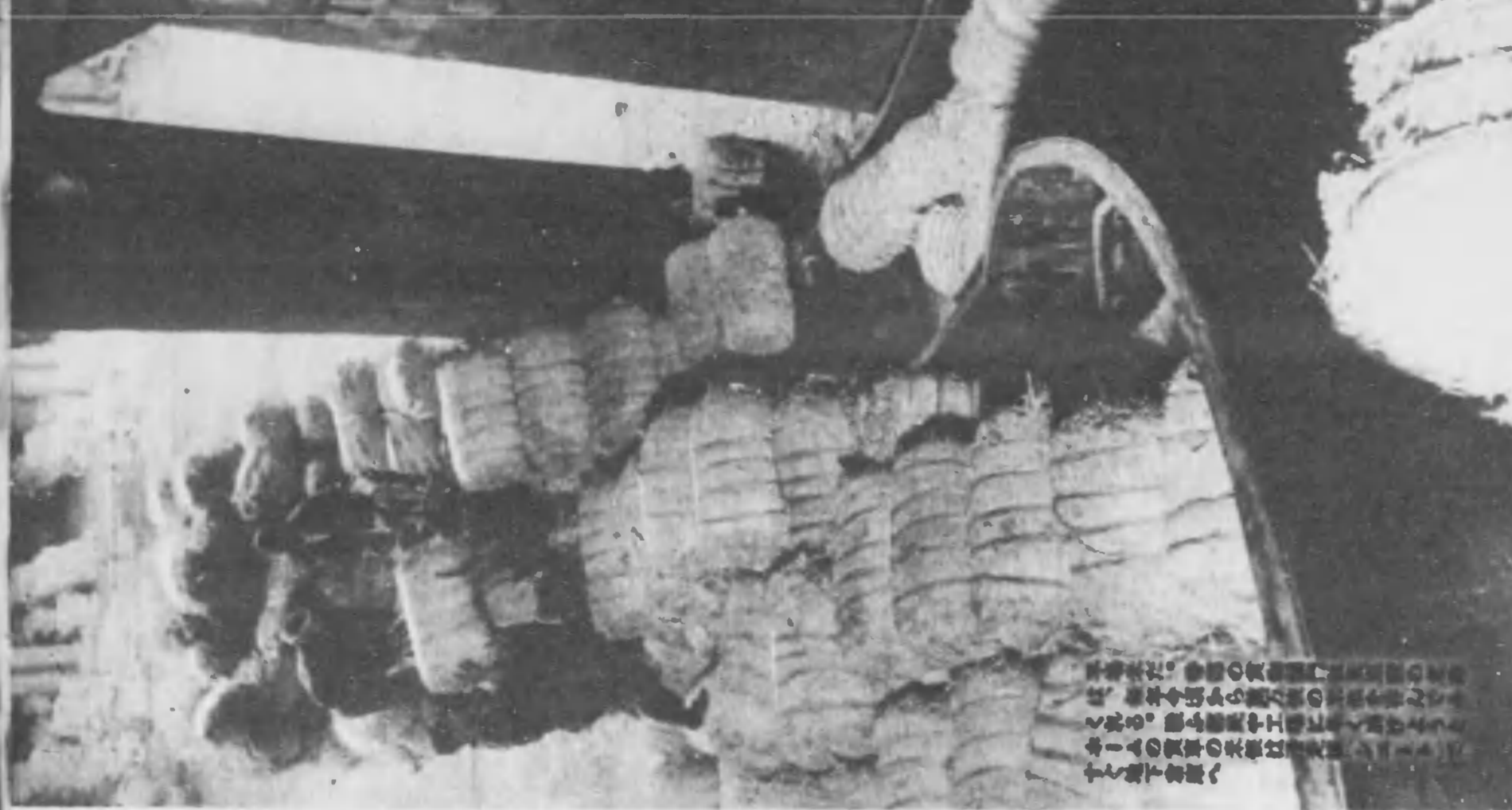


時の立札

秋風が身にしみる頃に
 冬の炭のことを考へる
 だが、ぐちをこぼす前に
 炭を焼く人々や
 運ぶ人々の労苦を思は

新らしい風景も
 できあがつた
 「おあつんと
 くだ」
 橋本 義山 村

旅行をもく博まへ



石炭の積み重ね。このように積み重ねられた石炭は、各地へ運ばれ、工場や家庭で使われる。輸送の効率を高めることが、戦時体制下で重要な課題となっていた。

などは特に急送が必要で、それはこれら生活物資は一定期間内に必ず一定量の輸送は完了しなくてはならず、特に食料品は腐敗し易いからです。しかも以前と異つて生産地と消費地の間に距離が少なくなつてゐますから、この距離を縮短は重要視されてはならないのです

一方、生産に際してゐる生産職士の労働もできるだけ確保しなくてはなりません。現在通商手続はこの十年間に十倍近く増加してゐます

以上がごく大づかみに大體の現状ですが、この困難な環境を打破し、一層輸送力の強化を図るため国策では、その技術、資料、勢力の一切をあけて努力してゐます。例も現在もつてゐる輸送の標準を最高度に上げ、必要輸送の増強をはかる一方、旅行の制限や時刻の改正などを行つて、一貫重要輸送の完遂に努力して来たのであります。しかし列車を増大してゆく輸送力の増強に必要のないやうにするには、なほ一層の努力と調整が課せられねばならぬのはいふを余すところなくです

去る十月十一日より全国の列車の運轉時刻を改正実施したこともまた、「急送輸送」とは一層の完遂を期するがためでありす

今度の時刻改正の趣旨は先きの通りですが、改正時刻表については十月十二日発行の「運轉」四一六號を参照して下さい

必要列車は増強しました。伊勢湾物産列車では上り十五本、下り十三本(全定約二万八千本)運轉列車では二三本(二千四百本)の増強をしました

普通旅客列車は、これを縮減したり、また急行列車の運轉区間の一部を普通列車にしたりしました。また主要線の長距離列車の一部、餘り緊要でない列車の一部を取消しました。また貨物列車でも利用効率の低い路線の一部は取消しました

また機関車を活用し、列車の遅延や事故を防ぐため旅客列車の速度をおとします。例として東京—下関間は四九分、東京—大阪間は三分五、大阪—下関二五分五)

その他燃料節約のため機関車を減らすとか、一部の駅では急行列車の停車回数を減らすとか、各駅の待避を簡便しました

この改正の結果は、旅行は一層困難となつてきましたが、しかしこれによつて祖國の精力はますます増



大なることになつたのです。不必要な旅行は極力、しむとともに、すすんで決戦輸送に協力せられるやうお願いいたします

運輸通信省鐵道總局

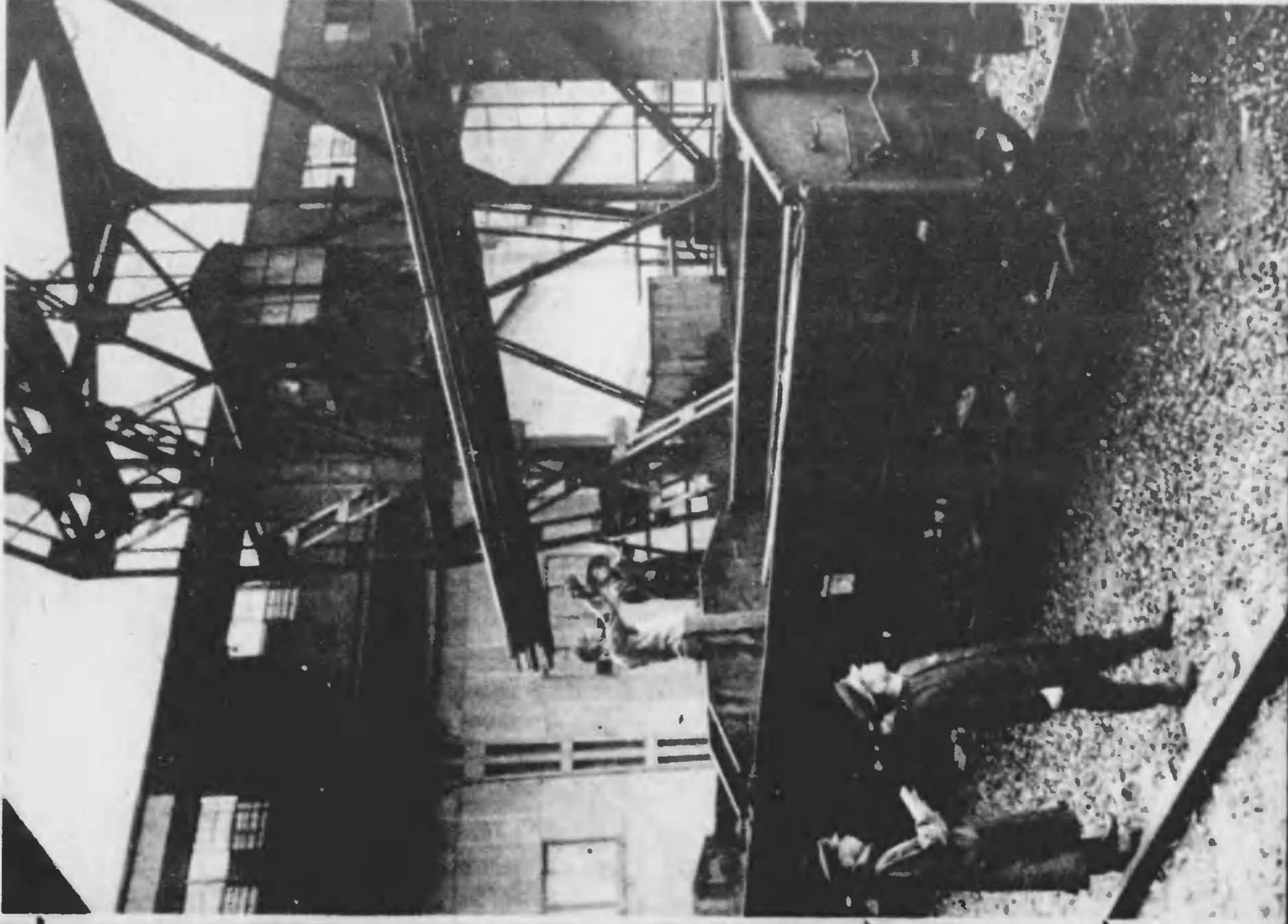
□ なるべく旅行は減らされてゆく。一貫早く生産工場とつなげねばならない。輸送はよりして一日も早くつくる

決戦輸送と時刻改正

輸力の基礎として解は陸上輸送を一手にひきあげて頑強な大規模では、決戦を目前にひかへて更に重い負荷の突進に突入しつゝあります。最近における戦争物資の輸送は實に驚くべき重量にのびつてゐます

いま石炭の急増増産期にあつて石炭山では採炭職士が奮闘を敢行をつづけてゐます。國策でもこれらの努力を一層早く生産工場にらつすべく石炭輸送に専任の列車が、これを輸送の面からみると輸送が最も輸送物の三分の一に相当するほどの多量さであります。そして石炭の産地は九州とか北海道なのに、その消費地は内地の中心地が多いため、輸送の距離は著しく長いのです。従来石炭のやうな大量で、しかも輸送の距離の長い貨物は、主として海上輸送によつてゐたのですが、これらの船が多く戦國區域に活躍してゐる今日では、國策が代つてゐるのですから陸上輸送が極度に強化を期してゐるのも當然なのです

前以上の石炭とか鐵礦石とかアルミ原礦とか直接戦争の素材となるものほかに、また國民生活の必需品も絶対に確保しなくてはなりません。米や麦のやうな主要食糧をはじめとして、蔬菜とか薪炭、砂糖



重い貨物は早くして、すくなくともこの運送に必要設備に待つてはならない。生産者の人々も努力を怠らぬ

召喚くそくそ 金白了こざめ戦決



東京商工経済会では、全会員の献金供出を促すため白金の献金日を定め、その第一日を十月二日行つた。徳山会長はじめ多数の供出があり買上額等は三万圓を越えた（中央後部は徳山会長向つて立つ）
 徳山の買上額受取の一つ新堀三浦と朝早くから詰めかけておる人々

大嘗、ナニヤンの悲しみを感え、復讐の鬼と化しつゝある一國民は、その戦場において、その身分に應じて、黙々挺身の決意を固めてゐるが、とりわけ英米軍艦の兵器を生む白金の供出については國民の熱情は正に沸騰しつゝある。切迫してゐる決戦の時、白金供出に躊躇を許さぬ。マリアナ復讐の誓ひは最後の一片まで、白金を決戦のお役に立てよと要求してゐる。さうだ。最後の一片まで、そして一刻も早くかくて國をあげての白金供出は、ときによきときによきまじし美談まで續りまきて、日を追うてあがる熱意と共に國運奮闘を鼓舞させてゐる。なほ白金は十月十五日から施行された軍需省令「白金製品の運搬に関する統制に関する件」により強制買上となり、運送中満期日は十一月十五日までとなつた。しかし、強制買上を持つまでなく至金供出されることが望ましい。

十月九日、日本赤十字社では利左衛門門下、梅五郎門下、吉右衛門門下を初め、餘部以下の供出を支援行つた。





山麓の谷間に散らばる人々の小さな家。力強い山の麓にたつた（上野山）

炭

家庭にも工場にもなくてはならない木炭。出炭や焼炭から、炭塊、煉炭、備工業用炭まで使われ、石炭や石油の代用燃料として重要視されている木炭。かつては

その他の関係で若干生産に^比差を来してをり、また燃費の問題もあつて多少配給量が遅れる場合もあり、また国防産業方面によりむけるためにやむを得ず配給量を減らす場合もあることを見てあかれはならぬ。しかし政府はあくまで本年度の生産計画量の確保をめざして最近

あるべきものの価値の本質。この
 〇の裏にまつたはる価値と
 くは情の度とがわかる



「お楽しみはこれから」の
の人々は、歌謡をあげて出迎える



「プログラムは進むが、水産は
本日の目玉で、お待ち
ました。」

職工船長職士の労苦にとわく、みんな明るく笑って、労務を眺めなが
うと、東京臨海副都心内では赤坂下にはもつてこいの高層ビル群を
築き、各建設現場に休養場としておます

まづ連絡も電話一本で「お楽しみします」の申出があると、待ち構へた
職員たちはトラック二臺に舞臺やらマイクやら大道具、小道具、樂器な
ど大急ぎで積み込み、船長職士の現場へ直行します

到着するや、適宜な空地に臨く間に野外舞臺を急造し装飾もきで、何
と二時間半の晴るいお芝居や舞臺の華は開かれるのです

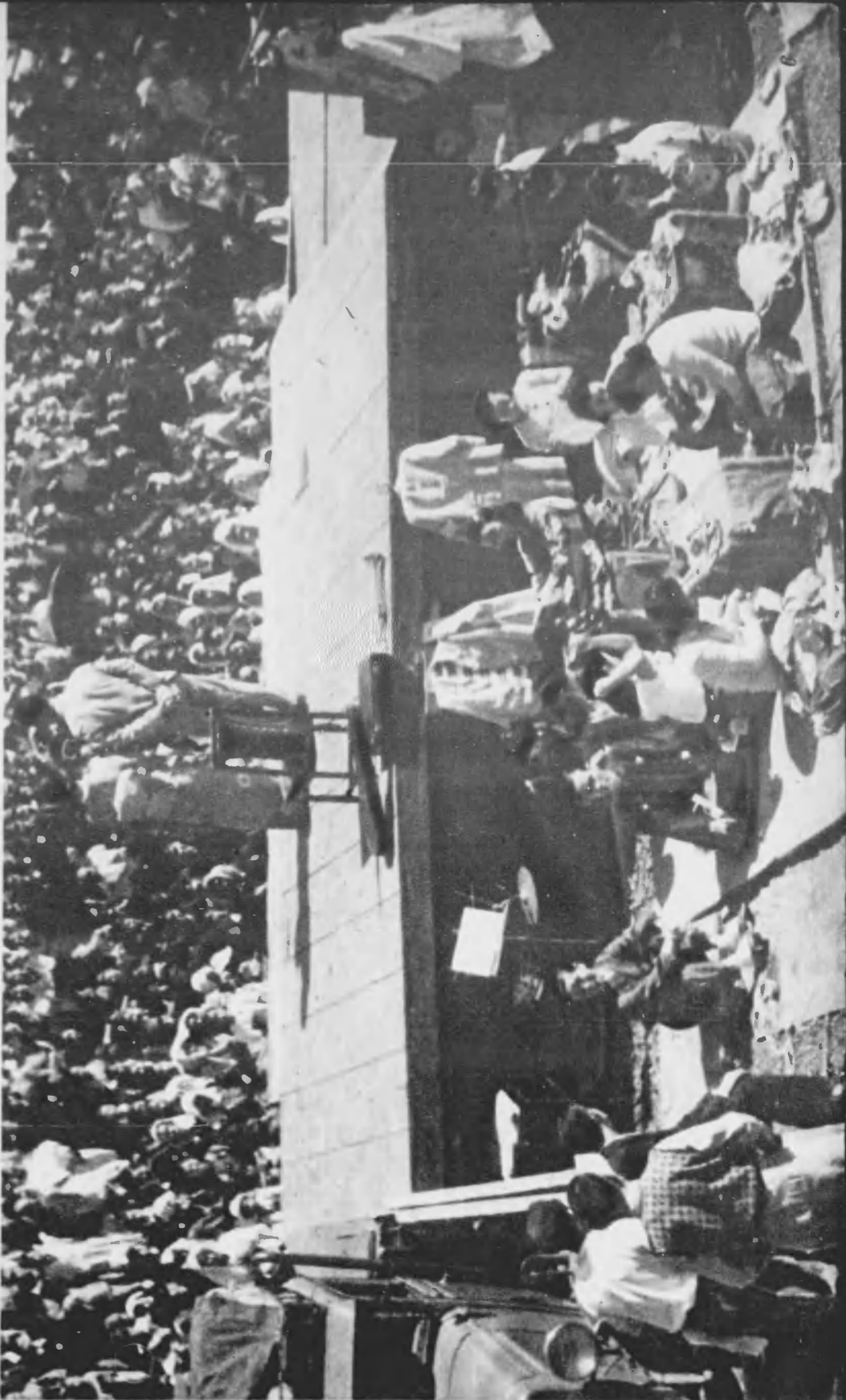
一方、待ちどわつた現場では船長さんの観念一下、およそ手の空ける人
たちは、ニコ／＼顔で舞臺の側に見守り、家長もらちつれてシートを敷
きまじつて、明るく舞臺を二階層から眺め見守るのです。日頃はとても
忙しい船長さんや船長さん、それから切符切りの職員さんも一度はドヤと
笑つたり、感心したり、われを忘れて拍手喝采のひとときを喜びます

劇が始ると職員は僅か二十分間のうちに再び道具をトラックへ積み
込み、職員たちの見送る船長の腰に右手を借しみながら、水産の誇りと明
朗なトラックを離れさせます

われを忘れて爆笑
と拍手をあくる



横二十メートル、縦十メートルの舞臺
築き、八重葎のガク屏をのぞけば……





とと

朝子は自分が貧乏へ戻つてみて、以ていかに苦しく、
 歸つて行つたときのことを思ひ出した。
 朝子の生れた山村では、「團子食ひ」と言つて、一月
 三十一日の晩、よそへへ出た娘を呼んで、赤小
 豆粥に團子を入れて食へさせる習はしがある。昔の
 赤小豆粥の名残だらう。
 「こんなに大雪でも行く気なの？」と、母は言つて
 朝子が背負つて出かけるのを、少し木欄端に見送
 つた。
 「あんなに嬉しいもんなら、手袋になつても、子供
 の気で……お婆さん早くこの家になんでくれな
 いとねえ。」
 「でも、私だつてよそへゆけば、いつまでもこの家
 が懐しいでせうし、歸るのを楽しみにしなかつたら
 お婆さんはさびしいでせう」と、朝子は言つた。
 戦争で男手の少い村で、朝子は女子移動隊員に加
 はつた程の働き者だつた。町へ歸り来て朝子は朝のキ
 りでも、なにかと乏しい暮しが、朝子は貧乏の毒であ
 つた。今、雪の降りしきる山道をむしやりに歩いて

て、生家へ行く道のを思ふと、「がんばれ」を
 かけてみたくもあつた。
 それから四年後、朝子は貧乏に歸つて、その朝の
 寒所をする音で目が覺めた。四家の白壁に山が迫つ
 てゐて、黒い山が生きて来る。佛壇の七宝に「私は
 仕合です。」と言ひながら、静かに涙がたまる。夫
 を思ひにゆくと、
 「ああ、お前の家か。」と、夫は寝たまま古い顔面を
 見せた。
 朝飯前からは林檎や梨の皮をむきかきにして、
 もうたくさんと言ふ顔だ。
 「さあ、思ひ出さず食べておくれ。」と突きつけて、
 それを早く食ひ終る朝子は驚かされた。その小さい朝と
 朝三人に取圍まれて、叔父さんになつた夫が、その
 なごやかなが、朝子は珍しく嬉しい。
 母はもう朝子の赤ん坊を抱いて床に出て
 「朝子の子供もこんなに太つて、ほら御覽になつ
 て。」と、近所の人に自慢してゐる。
 兄の顔面からの手紙を見せると立つた朝子の顔
 だ、朝子はよと涙の雫、しかしこの家の人になり切
 つた。朝つた重みを感じて、はつとした

横山隆一



白鳥出雲 安木栄一
 君はくは化して長髪とな
 り、悪者を懲らんとす一
 喝也

馬の子守唄

徳木 敏
 寝ればかりが寝ぢ
 やなし、かろしたた
 とまのお歌にとど
 だてにやつとめい
 馬の胸だあ

あつた！
 へびた

皆さんの創意工夫知
 識を凝集してこの階層
 を打倒して下さい

【問題】お隣の奥さんだら
 今日私の顔をみるなり「男
 子生まれだつた」といひ
 だすので何のことかと思つ
 たら、髪を切つて丸坊主に
 なればはなはだ感もなとい
 つて、私の泣ひたての涙を
 見ながら「奥さんは髪をひ



神代の朝子に「コイ」が抱つて来る木切れが大層
 ベケフに一杯にたれば風俗が湧くといふよ



これは名実共同風俗

日もまだ高いうちから朝霧改題の共同風俗からは子供
 たちの楽しい噂が聞えてきます。大阪府貝塚市堤町
 町会の第六團組の共同風俗です。すでに七年前から始め
 たもので、よるい程度よりつばな風俗精神がうまく湧け
 ません。
 「ほんまに、お湯やわ、持つてゐる水やの人は持参も
 交際で、みんな仲よい團組一隊



日本の力

八十島 忠作 作詞
 徳本 國彦 作曲

歌詞と五線に充ちて「-194

国民合唱

日本は
 一かまを
 二かまを
 三かまを
 四かまを
 五かまを
 六かまを
 七かまを
 八かまを
 九かまを
 十かまを
 十一かまを
 十二かまを
 十三かまを
 十四かまを
 十五かまを
 十六かまを
 十七かまを
 十八かまを
 十九かまを
 二十かまを
 二十一かまを
 二十二かまを
 二十三かまを
 二十四かまを
 二十五かまを
 二十六かまを
 二十七かまを
 二十八かまを
 二十九かまを
 三十かまを
 三十一かまを
 三十二かまを
 三十三かまを
 三十四かまを
 三十五かまを
 三十六かまを
 三十七かまを
 三十八かまを
 三十九かまを
 四十かまを
 四十一かまを
 四十二かまを
 四十三かまを
 四十四かまを
 四十五かまを
 四十六かまを
 四十七かまを
 四十八かまを
 四十九かまを
 五十かまを
 五十一かまを
 五十二かまを
 五十三かまを
 五十四かまを
 五十五かまを
 五十六かまを
 五十七かまを
 五十八かまを
 五十九かまを
 六十かまを
 六十一かまを
 六十二かまを
 六十三かまを
 六十四かまを
 六十五かまを
 六十六かまを
 六十七かまを
 六十八かまを
 六十九かまを
 七十かまを
 七十一かまを
 七十二かまを
 七十三かまを
 七十四かまを
 七十五かまを
 七十六かまを
 七十七かまを
 七十八かまを
 七十九かまを
 八十かまを
 八十一かまを
 八十二かまを
 八十三かまを
 八十四かまを
 八十五かまを
 八十六かまを
 八十七かまを
 八十八かまを
 八十九かまを
 九十かまを
 九十一かまを
 九十二かまを
 九十三かまを
 九十四かまを
 九十五かまを
 九十六かまを
 九十七かまを
 九十八かまを
 九十九かまを
 百かまを

日本の力
 日本は
 一かまを
 二かまを
 三かまを
 四かまを
 五かまを
 六かまを
 七かまを
 八かまを
 九かまを
 十かまを
 十一かまを
 十二かまを
 十三かまを
 十四かまを
 十五かまを
 十六かまを
 十七かまを
 十八かまを
 十九かまを
 二十かまを
 二十一かまを
 二十二かまを
 二十三かまを
 二十四かまを
 二十五かまを
 二十六かまを
 二十七かまを
 二十八かまを
 二十九かまを
 三十かまを
 三十一かまを
 三十二かまを
 三十三かまを
 三十四かまを
 三十五かまを
 三十六かまを
 三十七かまを
 三十八かまを
 三十九かまを
 四十かまを
 四十一かまを
 四十二かまを
 四十三かまを
 四十四かまを
 四十五かまを
 四十六かまを
 四十七かまを
 四十八かまを
 四十九かまを
 五十かまを
 五十一かまを
 五十二かまを
 五十三かまを
 五十四かまを
 五十五かまを
 五十六かまを
 五十七かまを
 五十八かまを
 五十九かまを
 六十かまを
 六十一かまを
 六十二かまを
 六十三かまを
 六十四かまを
 六十五かまを
 六十六かまを
 六十七かまを
 六十八かまを
 六十九かまを
 七十かまを
 七十一かまを
 七十二かまを
 七十三かまを
 七十四かまを
 七十五かまを
 七十六かまを
 七十七かまを
 七十八かまを
 七十九かまを
 八十かまを
 八十一かまを
 八十二かまを
 八十三かまを
 八十四かまを
 八十五かまを
 八十六かまを
 八十七かまを
 八十八かまを
 八十九かまを
 九十かまを
 九十一かまを
 九十二かまを
 九十三かまを
 九十四かまを
 九十五かまを
 九十六かまを
 九十七かまを
 九十八かまを
 九十九かまを
 百かまを